医

からだにいいはなし

コロナワクチンってどんなワクチンなの？

新型コロナウイルスのワクチン接種がいよいよ始まります。私たちの体の中にどんなワクチンがはいるのでしょう？

従来のインフルエンザやはしかなどのワクチンとは大きく異なる機序のワクチンが開発されました。現在、世界で使用され始めているワクチンは、いずれもウイルス抗原の遺伝子を用いたワクチンで、大きくはベクター型と核酸型に分類されます。

ファイザー社やモデルナ社のワクチンは、メッセンジャーRNAという核酸を、人体へ注入することで、体内の細胞にウイルス抗原蛋白を生成させます。

報道などでよく見るコロナウイルスの周囲のトゲトゲの部分だけを、体の中で安全に大量に作る遺伝子です。

これにより人体は、コロナウイルスに実際に感染することなく、コロナウイルスの一部の特徴的な形だけを記憶して、抗体免疫を高めることができます。

メッセンジャーRNA遺伝子は、不安定な物質のため自然に分解され細胞外へ排泄されます。

ワクチンの接種部位について

インフルエンザワクチンのような皮下注射と異なり、筋肉注射で接種を行います。

実は皮下注射をしている国は日本とその他わずかあるだけで、世界的にはワクチンは筋肉注射で打つことが主流です。効果と副作用の面から筋肉注射の方が優れた接種方法であるとされています。

筋肉注射は肩の近くの三角筋という部分に接種します。

針をより深くに刺しますが、痛みが特別に強いということはなく、接種方法の違いによる心配は不要です。

新しいワクチンは有効なのか

海外での試験において、有効率はファイザー社は95％、モデルナ社は94・5％、アストラゼネカ社は60～90％と非常に高い発症予防効果が確認されています。接種を受けた本人のメリットは発症予防効果として大きいのがわかります。

高齢者や基礎疾患（＊）を有するハイリスク者は接種メリットがさらに大きいでしょう。

もし、コロナワクチンを受けた後に熱が出たら、どうすれば良いのでしょう？

ワクチンによる発熱は接種後1～2日以内に起こることが多く、必要な場合は解熱鎮痛剤を服用するなどして、様子をみていただくことになります。

このほか、ワクチン接種後に比較的起きやすい症状としては、頭痛、疲労、筋肉痛、悪寒（さむけ）、関節痛などがあります。

ワクチンによる発熱か、新型コロナウイルス感染症かを見分けるには、発熱以外に、咳や咽頭痛、味覚・嗅覚の消失、息切れなどの症状がないかどうかが、手がかりとなります。（ワクチンによる発熱では、通常、これらの症状はみられません）

ワクチンを受けた後、2日以上熱が続く場合や、症状が重い場合、ワクチンでは起こりにくい右記の症状がみられる場合には、医療機関などへの受診や相談をご検討ください。

四万十町国保大正診療所
筒井崇・中澤彩花・大川剛史（執筆）

（＊）新型コロナウイルス感染後、重症化しやすいリスクとしては高齢者、肺気腫などの慢性閉塞性肺疾患（COPD）、慢性腎臓病、糖尿病、高血圧、心血管疾患、肥満があげられます。

コロナワクチンのおはなし

令和３年５月20日より避難勧告は廃止

警戒レベル4 避難指示で必ず避難！

避難情報や雨の状況などはこまめに確認

ケーブルテレビ　防災スピーカー　町公式LINEなど

避難警戒レベル 早見表

災害発生の危険度（高→低）

警戒レベル5　すでに命が危険な状況
緊急安全確保　今できる、命を守る最善の行動を！
※必ず発令されるとは限りません

▶▶▶▶▶▶▶ 警戒レベル4 避難指示までに必ず避難 ◀◀◀◀◀◀◀

警戒レベル4　**避難指示**　危険な場所から全員避難を！
※役場が発令

警戒レベル3　**高齢者等避難**　避難に時間がかかる高齢者や障害のある方は早目に避難を！
※役場が発令

警戒レベル2　**大雨・洪水・高潮注意報**　避難の準備を！
※気象庁が発表

警戒レベル1　**早期注意情報**　台風や雨の情報のチェックを！
※気象庁が発表

自分は大丈夫だろう。
そのうち雨はやむだろう。
避難したのに損した。
ここは崩れないだろう。
警告
いつもと違うなと感じたら安全なところへ避難
※避難は避難所に行くことだけではなく建物内等安全な場所に留まることも避難です。

お問い合わせ先　危機管理課　22 - 3280